

特別支援教育

袋原中学校では、「特別支援教育」について、次のようにとらえ、教育活動を実践しています。

1 「特別支援教育」とは

「十人十色」という言葉がありますが、どの子供もそれぞれの個性があり、いろいろな可能性を持っています。つまり子供たちは一人一人、成長や発達の過程が異なります。

特別支援教育は、一人一人の学び方の違いに合わせた教育であり、その考えはすべての子供の指導にもあてはまります。

2 交流および共同学習を進めます

本校には、手厚い教育ができる場として、特別支援学級（いちい学級）があります。

いちい学級では、一人一人の生徒の発達段階に合わせた個別の指導計画を作成し、きめ細やかに学習や生活の指導を進めています。また、生徒は交流学級でも日常的に多くの時間を過ごし、通常学級の集団の中で学習や生活、行事などに励んでいます。

交流及び共同学習は、障害の有無に関係なくお互いの良さを理解することができ、すべての生徒にとって大きな意義があります。本校では、積極的に交流及び共同学習を進めていきます。

3 通常学級のお子さんへも適切な支援を目指します

文部科学省の調査で、通常の学級に「知的な遅れはないものの、学習面や行動面で著しく困難がある児童生徒」が、1学級に2～3人はいるということが分かりました。

「頑張っているのに分からない」「できない」「気になる行動をする」「友達とのトラブルが多い」など何らかの『学びづらさ』が頻繁または長期に見られるときは、単に「教師の教え方が悪い」とか「親の躰が悪い」「本人の努力が足りない」などと決めつけるのではなく、医学的・心理学的に広く背景を探ることが必要です。生徒や保護者の思いに寄り添い、一人一人の理解と、より適切な支援の方法を一緒に考えていきます。

